

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
みんながつながり支え合うまち	地域で支え合い、ずっと健やかに暮らせるまち	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の孤立防止と社会参加 ①日頃からの声かけや見守り ②日頃からの近所付き合い 	<ul style="list-style-type: none"> ①出会いと仲間づくりの場：どんどや、夏祭り、彼岸花ロードハイキング、ホテル祭りなど ②様々な団体の積極的な協力がある ③赤飯配り、高齢者福祉グラウンドゴルフ大会、敬老会等は、声かけ・見守りのきっかけづくりにも役立つ ④おすそ分けに代表される文化が希薄になってきている ⑤各地域のサロン・広域の健康教室 ⑥わくわくウォーク川上 	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症に関する基本的な知識の習得も重要だが、予防も大事と考え、フレイル予防・認知症予防に取り組んできた。 ①その基本はウォーキング：楽しく気軽に実行でき、継続しやすい。 ②ウォーキング活動をさらに拡充する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係団体と協力して、ウォーキング活動の拡充を図る。 ①一緒に歩く、ながら歩きのすすめ 校区の名所旧所を訪ねるスタンプラリー等 ②ウォーキングをしながら挨拶や声かけ ③認知症の理解を深める ④万歩計・スマートウォッチなどを活用していく ●介護施設への支援 介護施設の広報誌・PR回覧 各地域へのポスティング
			<ul style="list-style-type: none"> ●認知症高齢者に対する理解 ①認知症への正しい理解 ②認知症高齢者への対応方法 		<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な知識等の習得を幅広い層へ ②生活見守り体制や徘徊時の初動体制の構築を検討する 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●障がい児・者に対する理解 ①障がい者への正しい理解 ②障がい児・者への対応方法 	<ul style="list-style-type: none"> ①日頃からの地道な信頼関係づくりがとても重要 	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者・児を持つ人達や家族が、信頼し、安心して相談できる地域づくりの上にしか成り立たない。 ①今、実施している事を継続しさらに充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ①理解を深める学習会を計画する ・障がい者サポーター研修の参加 ②交流の場の企画 ・グループホームへの見学 ・カフェスペースでの交流 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●孤立防止と社会参加 ①日頃からの声かけや見守り ②日頃からの近所付き合い 		<ul style="list-style-type: none"> ①信頼関係を気付くための交流のきっかけづくりとして、これまでやってきた取り組みもさらに充実していく ②日頃からの挨拶 		
	子どもが元気に伸び伸び育つまち	子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの人権（いじめ・不登校等） ①早期発見と早期対応 ②学校との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ①青パト、防犯パトロール、挨拶運動など ②子どもの居場所づくり：夏休みのサマースクール放課後の学習広場 ③まなざしネット川上によるネットワーク構築 ④巡回子育てサロン、母子ふれあい交流、こんにちは赤ちゃん事業 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの遊び場づくりについて検討してきたが、苦慮している。 ①公園をうまく活用している地域もあるが、公園が狭い、無いなどの問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係団体と協力して、子どもたちの遊び場の確保について検討を継続。 ①公民館の有効活用 ・学習スペースの確保
			<ul style="list-style-type: none"> ●子ども・子育て世帯の見守りについて ①登下校時における見守りと安全確保 ②子育て世帯の情報把握（転入世帯等） 			
	備えあれば憂いなし	災害・防災	<ul style="list-style-type: none"> ●平常時の備え・避難支援体制の認識と構築 ①避難先の周知と避難経路の確保 ②要援護者の実態把握と支援体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ①避難運営委員会との連携 ②災害時要援護者支援体制が活用できていない ③地域によって取り組みに濃淡がある ④メンバーの固定化により継続性がない ⑤災害が少なく危機感が足りない ⑥区全体で防災センターが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●校区防災会議の中で、要援護者避難支援事業や、避難訓練なども体系的に位置づけ、取り組んでいく。 ・ワークショップの開催 ・防災組織の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係団体と協力して、避難運営委員会と連携する。
			<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民の意識づけ ①各家庭における備蓄食料等の確認 ②日頃からの近所付き合い 			
	みんなで支え合うまち	その他	<ul style="list-style-type: none"> ●地域役員の担い手不足 ①地域活動に対する住民の理解 ②地域団体の役割と活動内容の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域役員の担い手不足 ②熊本保健科学大学をはじめ、大学との連携に取り組んできた 	<ul style="list-style-type: none"> ●校区在住の大学生を活動の輪に取り込んでいく 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係団体と協力して、校区大学生の参画を進める。
			<ul style="list-style-type: none"> ●環境と治安（ゴミステーション・騒音トラブルなど） ①ゴミ出しに関する正確な情報の提供 ②日頃からの近所付き合い 	<ul style="list-style-type: none"> ①ゴミ出しマナーの問題 ②通りがかりに捨てていく他の地域の人に対して、どう対応してよいか苦慮している ③近所付き合い・交流が希薄になってきているところもある 	<ul style="list-style-type: none"> ①ルールの啓発を図る ②住民同士で互いにゴミステーション清掃を心掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> ①広報・啓発活動